HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「楡蔭」29号
Issue Date	1972-06-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66794
Type	journal
File Information	yuin29.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学附属図書館報

楡蔭

The Hokkaido University Library Bulletin　No. 29　June. 1972

部局図書室の蔵書構成の改善

経済学部助教授　中　村　通　義

目録カードを調べたり，書庫に入ったりしてみて，次のような経験をした人は少なくないであろう。

(1)　当然あるべき筈の重要な図書がない。

(2)　本の性質からいって，1冊（あるいは1揃い）あれば充分な筈なのに重複本がある。

(3)　目録カードはあるのに本がない。

(4)　本はあるのに目録カードがない。

このうち(3)と(4)は本を購入してから後の事務処理上の重要な問題であるが，今回は触れないことにする。本稿では(1)と(2)について技術的に処理できる範囲内で考えてみたい。

まず(1)のような事態がなぜ生ずるのかを考えてみよう。

a．非常に利用頻度が高い本であるために教官が私費で購入して，研究費で買わない。

b．著者から個人的に寄贈されたので研究費では買わなかった。

c．その分野の専門家がいないために買っていない。

d．予算が少ないために買えない。

これらのうちdについては技術的処理で片付く問題ではないので除くことにする。しかしa. b. cについては学部あるいは学科レベルでの教官（とくに図書委員）と図書掛職員との努力でかなりの程度まで改善することが可能である。a. bについては学部内あるいは学科内共通図書費の一定部分をリザーブしておき，毎年4回位（毎月ではわずらわしいし，年に1，2回では忘れてしまう）各教官に問合わせて（直接でもよいし，所定の用紙を準備しておいて配布してもよい）かならず補充するシステムを確立しなければならない。cについては図書委員が，常に注意を怠らずに，隣接分野の教官の意見などを参照して買っておくことが望ましい。これはなかなか大変な仕事であるが，少なくとも和書の基本的なものについてだけでも努力して買っておかなければならない。

次に(2)の重複本について。重複してもかまわない，あるいは重複本を置くことが望ましいというケースは別として，不必要な重複本は予算と書庫のスペースの浪費である。このような意図せざる重複を防止するためには発注の段階でチェックするのがもっとも確実である。そのためには発注の窓口が一本化していなければならない。問題は窓口の一本化がどのレベルで行なわれているかというところにある。できれば部局レベルでの一本化が望ましいが，実際には部局によっていろいろ事情が異なっているようである。しかし講座ごとに全くバラバラな発注が行なわれているようなことがあれば早急に改善されるべきであろう。少なくとも学科レベルでの重複発注チェックを行なうことが必要である。なお異なった部局間の意図せざる重複もできるだけ避けたい。とくに比較的高額で大部のシリーズもの，バック・ナンバーの発注に際しては事前に細心の調査が必要である。

蔵書構成の改善は図書掛職員だけではできないし，教官だけでも勿論できない。両者の不断の密接な協力が望まれる。

◆ 会 議

第8回 改革検討委員会第1-2専門委員会

<と き 昭和47年4月22日（土）>
<ところ 附属図書館会議室>

1. アンケート調査について

(1) 今村委員から全体のまえがきについて説明があり若干の字句を修正したのち学長に提出する「中間報告」の一部とすることを決定した。

(2) 中村委員，柏村委員，大畑委員からそれぞれ対大学院生，学部学生，教養学生の分析まとめの説明があり質疑応答の後若干の字句を修正しこれを決定した。

第21回 教養分館委員会

<と き 昭和47年5月8日（月）>
<ところ 教養分館長室>

1. 分館増築概算要求について

事務主任より分館増築原案について説明があり，審議の結果第2案計画の提出を了承された。

2. 昭和46年度分館図書費決算について

分館図書費決算について説明があり，審議の結果異議なく了承された。

第60回 図書館委員会

<と き 昭和47年5月25日（木）>
<ところ 附属図書館会議室>

1. 昭和46年度決算報告について
2. 昭和47年度予算要求案について
3. 昭和48年度概算要求案について

以上，3件につき館長から配布資料に基づき説明があり若干の質疑応答の後承認された。

4. 報告事項

館長から次の事項について報告があった。

(1) 北大改革検討委員会第1-2専門委員会の中間報告について

第4回 国立大学図書館協議会北海道地区協議会

<と き 昭和47年5月17日（水）>
<ところ 附属図書館会議室>

標記協議会を，文部省より岡情報図書館課課長補佐を招き開催された。協議題は次のとおりである。

(1) 図書館職員の昇格 (2) 夜間開館手当の増額 (3) 図書館職員の定員増要求 (4) 図書館業務と教官との連携 (5) 北海道地区（国・公・私）大学図書館協議会の組織および運営

なお，(1)～(3)の協議題は，第19回国立大学図書館協議会総会での地区議題として提出することになった。

第19回 国立大学図書館協議会総会

第19回国立大学図書館協議会総会は，去る6月8日・9日の2日間にわたり，全国国立大学の館長，部課長，事務長等約170名，および文部省情報図書館課長，大学図書館係長の出席のもとに，福岡県国保会館（当番大学：九州大学，福岡教育大学，九州芸術工科大学，九州工業大学）を会場として開催された。なお，今回より琉球大学が会員となり，九州地区に所属することになった。

会議は一般経過報告，岸本奨励賞選考委員会報告，各調査研究班報告（①司書職制度調査研究班，②大学図書館機械化調査研究班，③大学図書館建築調査研究班，④参考図書の基準調査研究班）が行なわれ，いずれの報告も充実したものであった。なお，上記各調査研究班は，昭和47年度も継続して調査研究を行なうこと

が決定された。分科会は第1（予算），第2（人事），第3（奉仕・その他），の3分科会に分れ，各地区提出の議題について活潑な審議が行なわれた。

研究集会は「新しい大学図書館像」をテーマとして行なわれ，新しい大学図書館像特別委員会委員長から経過報告があったのち，①相互協力による総合的収書計画，②大学図書館予算のあり方について，③学生用図書について，各々担当委員から報告説明があり，それをもとに討議が行なわれた。なお，昭和48年度研究集会についても「新しい大学図書館像」をテーマとして行なうことになった。

次いで，総会の決議にもとづいて，次の事項を文部大臣宛要望することになった。

1. 図書館維持費の増額　2. 図書購入費の増額　3. 夜間開館手当の増額　4. 図書館職員旅費の増額　5. 冷暖房の設置の促進とその運営費の予算化　6. 図書館近代化設備費の増額　7. 図書館職員の増員　8. 事務長補佐の設置　9. 情報処理のネットワークに関する予算措置　10. 夜間閲覧にともなう時間延長の制度を確立し，必要な定員を確保する　11. 外貨の価値変動についての標準的取り扱いである。

来年度第20回総会は，北信地区に決定された。

全学図書掛長会議

<とき　昭和47年6月22日（木）>

<ところ　附属図書館会議室>

1. 事務部長より去る6月8日・9日に開催された第19回国立大学図書館協議会総会について報告があった。
2. 外国雑誌一括購入について，事務上の問題点が種々討議された。なお，これらの問題点を勘案し外国雑誌取扱要領を作成することとなった。

資料紹介

昭和46年度　特別図書購入費で購入した資料（一部前号掲載）

新編纂「大日本仏教全書」

本全書は，大正11年に刊行された旧「大日本仏教全書」を新しく分類編成しなおし，解題・索引等をも付して，全く面目を一新した一大叢書である。

内容としては，日本仏教諸宗の宗典・史籍などの稀覯資料を広範囲に収録しており，仏教学，歴史学，東洋学，思想史など人文科学の諸分野の研究に不可欠の貴重な叢書である。

全100巻で，総数918部の典籍を含むが，今年度は既刊分60巻までを購入した。全巻の完備が早く実現するよう望みたい。

Monographs of the Society for Research in Child Development.

（児童発達研究会論文）

このモノグラフは，1936年以降現在まで年1巻計36巻（全体で142号）が公刊されているが，ひろく児童発達についての心理学的研究ならびにこれと密接な関連をもつ隣接領域の研究が毎号1編ずつのせられている。

胎児期より青年期にいたる各発達段階についての発達心理学的研究を行なう研究者にとって非常に重要な論文が集録されている。

論文はいずれも実証研究で，方法も実験・観察・検査・面接・調査といずれの方法にもか

たよらず，多様な方法による研究が取り上げられている。

領域に関しても身体発達，認知発達，人格発達等の諸領域のいずれにもかたよらず，質の高い論文を取り上げている。

Augustan Reprint Society. Publications, Nos. 1–90

(十八世紀イギリス文学批評理論シリーズ)

ヨーロッパの近代が十七世紀末から十八世紀初頭にかけての啓蒙主義の時代に始まることは今日では常識になりつつあるが，ちょうどその時期がイギリス文学では 'Augustan Age' と呼ばれている。上記のシリーズはこの時期のイギリスで出版された数多くの，しかも容易には入手し難いような文学理論・批評理論を，読み易い版に組直し，さらに，この分野の研究の権威者たちの手になる解説的な序文を加えて出版したものであり，1946年にカリフォルニア大学出版局から刊行されはじめて以来，今後も刊行が続けられて行くものである。

近代文学の正しい，そして最も根源からの理解のためには，'Augustan Age' の文学観の研究は不可欠のものである。この時期の文学思想の，中世的なものから近代的なものへの転換を，直接原典にあたって研究するためには，このシリーズはたいへん重要な資料である。

◆ 受贈図書

1. 本学教官の著作物

〔本　館〕

経済学部

日南田　静真　　ロシア農政史研究

2. そ の 他

〔本　館〕

元本学理学部助教授　故倉林正尚氏論文集および旧蔵文献等を，ご遺族寿美子夫人から下記のとおり寄贈がありました。

1. 倉林正尚著作論文集
2. 細胞学・遺伝学関係論文集 (抜刷集)
3. Cytologia. Ame. J. Botany のバックナンバー
4. 単 行 本　(和・洋)　65冊

◆ 参考室メモ

本館参考掛では，文献調査および種々の事項についての簡単な調査の依頼に応じており，またこれらの調査に必要な資料の蒐集や整理にあたっている。このほか国内外の図書館との相互協力による文献複写利用，学術出版物の交換，照会，資料の相互貸借などもおこなっている。この欄ではこのような業務の中から，図書館利用の皆さんに関心がありそうな話題をとりあげてゆくことにしたい。

"Boys, be ambitious!" について

この数年「Boys be ambitious に続く言葉について知りたい」という問合わせが多くなった。調べてみると，高校や中学の教科書の中にも次のような言葉をのせたものがあるようである。

"Boys, be ambitious! Be ambitious not for money or for selfish aggrandizement, not for that evanescent thing which men call fame. Be ambitious for the attainment of all that a man ought to be."

この言葉がこのように広まったのは，昭和39. 3. 16の朝日新聞「天声人語」欄によるものと思われる。「天声人語」はその出典として稲富栄次郎著「明治初期教育思想の研究」(昭19) をあげ，さらに次のような訳文を添えている。「青年よ大志をもて。

それは金銭や我欲のためにではなく，また人呼んで名声という空しいもののためであってはならない。人間として当然そなえていなければならぬあらゆることを成しとげるために大志をもて」

ここではクラーク博士の「大志」の内容は，富や名誉を否定して内面の価値を重んじる倫理的なものとなっている。これは“Boys be ambitious in God”として，神への指向を強調した人々の解釈と通ずるものである。

しかし，この言葉がクラーク博士のものであることを認めるには，いくつかの無理がありそうである。まず，“Boys, be ambitious!”は帰国に際し島松まで見送った学生たちに向って馬上から最後に一声のべられたもので（第一期生大島正健博士の著書による），その時の状況からみてこれは「さようなら」に代る別れの言葉であったと思われる。この言葉でさえ多くの学生たちが聞きとったことは疑わしい程である。次にクラーク博士は決して富や名誉を卑しんでいなかったことである。例えば農学校の開校式の演説でも，学生たちに向って「相応の資産と不朽の名声と且又最高の栄誉と責任を有する地位」に到達することをよびかけている。即ち日本が因襲的な身分社会から脱却した現在では，努力によっては国家の有為な人材となることを妨げるものは何もないことをのべ，学生たちの青年らしい野心（lofty ambition）を期待したのである。このためにとくに勤勉と節制の必要を説いているが，ここには「神の恩寵」を確信して世俗的な職業に励むピューリタンの精神がよくあらわれている。

それでは前記の長い英文を書き加えたのが誰であったかということになると，今のところ全く不明である。「天声人語」が引用した稲富氏の著書には典拠を欠いているが，これは恐らくは岩波の「教育学辞典」（昭11）の「クラーク」の項（海後宗臣）であると思われる。さらに海後氏は同文館の「教育大辞書」増訂改版（大正7）の「クラーク」の項（小林光助）によったものであろう。ただ小林氏は例の英文を引用するに当り，これが BBA の「意図する内容」であると書いているのに，海後氏はこの英文全体をクラーク博士自身の離別の言葉とのべている。その後の混同のもとはこの辺にありそうである。

終りに，BBA が札幌農学校時代にどのように伝えられたかについて簡単にふれておきたい。不思議なことであるが，現在はこのように広く知られているこの言葉も，明治の中頃までは農学校においてさえ余り知られていなかったのではないかと思われる。例えば後にはこの言葉について講演などもした第二期生の内村鑑三でさえ，学生時代にこの言葉を知っていたかどうか不明である。即ち内村はクラーク博士死去の翌月（明治19. 4. 22），アメリカの新聞「The Christian Union」に「The missionary work of William S. Clark」という一文を投稿し，この中で島松の別離のことをのべているのに，BBA には触れていない。このことは必ずしも彼がこの言葉を知らなかったことを意味するものではないが，少なくともこの言葉がそれ程重きをおかれていなかったことの証左となろう。

BBA が記録の上で最初にあらわれたのは，現在知られる限りでは，明治27年予科生徒安東幾三郎（のち日伯拓植取締役）が農学校の学芸会機関誌「蔥林」に掲載した「ウイリアム・エス・クラーク」なる文章中である。その13号に安東は書いている。「暫くにして彼悠々として再び馬に跨り，学生を顧みて叫んで曰く，『小供等よ，此老人の如く大望にあれ』(Boys, be ambitious like this old man) と。一鞭を加へ塵埃を蹶て去りぬ」この like this old man は意味深重であるが，別れの言葉としては一寸芝居がかっている。それに50歳を少し過ぎたばかりのクラーク博士が自分のことを old man と考えていたかどうか。それはともかく語呂の点からみても，まだこの言葉は学生間に充分に定着していなかったことを物語るように思われる。

次いで明治31年には学芸会が「札幌農学校」という本を編集しており（裳華房刊），その巻頭に「Boys, be ambitious」を掲げ，本文中に曰く，「忽ち高く一鞭を掲げて，其影を失ふと云ふ。実に巻首載する所の Boys be ambitious の語は彼れが最後の遺訓にして……」この本は美文調の風格ある文章で書かれていて，好評を博し3版を重ねた。農学校の出版物に BBA があらわれるようになったのは，この本以後のことである。いずれにしても，この言葉は長い間埋れたのち，札幌農学校が確固たる基盤を獲得し，学生たちの間に自信と誇りが培われた頃に思い起され，特別の意味を与えられるようになったようである。

北海道大学所蔵　学術雑誌総合目録欧文編の編纂業務について
(中 間 報 告)

昭和45年度当初に立案した標記目録の編纂業務は，昭和46年度末発行の予定で作業をすすめてきたが，その前段の作業である図書館および各部局図書室での所蔵調査その他誌名の変遷，改廃等の調査に予想以上の期間を要し，その結果約一ケ年間のおくれとなっている。本年5月末現在の業務の進行状況は所蔵調査は殆んど完了し，誌名の変遷注記，誌名の統一，参照カードの作成等について全学的な調整も九分どおり完了した段階である。そのあと原稿カードによる編集作業をおこない，印刷発注のはこびとなるが，おそくとも47年度末までには発行できるのではないかと考えている。

しかしながら結果的には当初計画より一年おくれとなり，目録記載年次と発行年の「ずれ」が大きく，利用価値の低下を招くことになるので，担当掛では可能な範囲で収録内容の補充を考慮したいと思っている。

ともあれ，早期発行に鋭意努力中である。　　(整理課整理掛)

◇ 人事往来 ◇

新図書館委員

佐　藤　教　男 (工学部教授)　6月1日付

配　置　換　5月1日付

南　山　勝　美　事務局施設部企画課 (整理課総務掛)
黒　田　泰　行　医学部附属病院管理課 (閲覧課参考掛)
山　田　重　幸　医学部附属病院業務課 (閲覧課参考掛)
江　坂　　真　整理課総務掛 (理学部用度掛)
笹　川　郁　夫　閲覧課運用掛 (文学部図書掛)
高　砂　　慶　整理課整理掛 (経済学部図書掛)
山　口　国　雄　附属図書館閲覧課 (附属図書館整理課)

出　向

庵　谷　郁　子　東京工業大学附属図書館 (整理課整理掛)

北海道大学附属図書館報　「檢蔭」　(通巻29号)
1972年6月30日 発行　　発行人　斉　木　一　郎
編集委員　沙藤隆茂 (長)・谷本幹男・村上　肇・宮部　徹・坂地　哲・徳田洋一・石黒克介・似鳥正吾・秋月俊幸・五十嵐政幸
発 行 所　北海道大学附属図書館　札幌市北区北8条西5丁目　電話代表 711-2111 (2966)
印 刷 所　文 栄 堂 印 刷 所　札幌市中央区北3条東7丁目　電話代表 231-5560-5561